4 大阪港の都市景観資源

大阪市では、景観的に優れた、新しい建物や歴史的建造物、橋や樹木等、景観形成上の大切な資源を、一人でも多くの方々に知っていただき、地域の景観づくりの中で積極的に活用していただくため、所有者との協議もふまえながら、都市景観資源として登録しています。

大阪港においても、多くの都市景観資源が登録されています。

[都市景観資源の概要: http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000017850.html]

安治川(あじがわ)

西区川口 2 丁目、福島区野田 1 丁目～港区弁天 6 丁目、此花区西九条 7 丁目地先

貞享元年（1684 年）、幕府の命を受けた河村瑞賢によって開削され、大阪の街の中心へ船の出入りが容易になり大阪の発展に寄与しました。安治川上流の川口は、慶応 4 年（1868 年）に河川港として開港した「大阪港開港の地」でもあります。

港大橋(みなとおおはし)

港区海岸通 3 丁目－住之江区南港東 9 丁目間

昭和 49 年（1974 年）に完成した最大支間長 510m のダブルデッキ形式のゲルバートラス橋で、阪神高速道路に架けられた橋の中で最も長い支間長を持ち、トラス橋としては世界第 3 位の規模を誇っています。また、橋下を 4 万トン級の大型コンテナ船が航行できるよう、海面から桁下までは 50m 以上の空間が確保されています。そのスケールや色彩、重量感から、大阪港のランドマークになっています。

安治川水門(あじがわすいもん)

港区弁天 6 丁目

大阪ではジェーン台風や第 2 室戸台風など高潮による大きな被害を受けてきたことから、その対策として、昭和 45 年（1970 年）に建設された水門です。耐震、耐風の安全性や、船舶航行時の必要上部空間を確保できることからアーチ型水門（幅 57m）が採用されました。

大阪市築港赤レンガ倉庫(おおさかしちっこうあかレンガそうこ)

港区海岸通 2 丁目 6 番

大正 12 年 (1923 年) 、住友倉庫によって港湾倉庫として建設された倉庫群は、港区では空襲にも焼け残った数少ない建造物で、現在はクラシックカーミュージアムとして活用されています。

天満屋ビル(てんまやビル)

港区海岸通 1 丁目 5 番 28 号

昭和 10 年 (1935 年) 建築で、当初は、天満屋回漕店の事務所兼住宅でした。茶褐色のスクラッチタイル、角に取られた大きなアール、丸窓を置いたモダンなデザインが印象的な建築物で、現在も飲食店等に利用されています。

大阪北港マリーナ(おおさかほっこうマリーナ)

此花区常吉 2 丁目 13 番

ヨット･ボートを中心とするマリンスポーツやレクリエーション活動を通じて、海に親しめる施設です。テニスコートもあるほか、隣接する緑地では海を眺めながらスポーツやピクニックを楽しむことができます。

此花大橋(このはなおおはし)

此花区北港 2 丁目、北港白津 1 丁目

此花大橋は、此花区北港(既成市街地) と、舞州(まいしま)(人工島)を結ぶ橋として平成 2 年 (1990 年) に完成した、全長 1.7km の長大橋です。主橋部は、世界でも珍しいモノケーブル自碇式吊橋 (主径間 300m) と呼ばれる形式で、1 本のメインケーブルによって橋桁を吊り下げている構造となっています。此花大橋の名前は、此花区のシンボルとなる橋として、市民に親しまれるように命名された橋で、橋上からの眺望はすばらしく、大阪港を代表する橋の一つです。

舞洲工場・舞洲スラッジセンター(まいしまこうじょう・まいしまスラッジセンター)

此花区北港白津 1 丁目 2 番 28 号、2 丁目 2 番 7 号

港から舞洲へ此花大橋を渡ると、一際目立つ建物が 2 つ見えます。左側に見えるのが舞洲工場で、焼却設備と粗大ごみ処理設備が併設され、最新の公害防止施設の採用や最大限の余熱利用を行っています。右側に見える舞洲スラッジセンターは、下水汚泥を効率的に集中処理する施設です。これらの建物や煙突などの外観デザインは、環境保護芸術家として世界的に著名なフリーデンスライヒ･フンデルトヴァッサー氏が担当し、外壁や屋上に木々を取り入れ自然との調和を図り、全体として「技術とエコロジーと芸術の調和」を表しています。

新夕陽ヶ丘(しんゆうひがおか)

此花区北港緑地 2 丁目

舞洲スポーツアイランドにある新夕陽ヶ丘には白い屋根の展望台があり、小高い丘の上からは舞洲や大阪港ベイエリアが見渡せます。空気の澄んだ日は、遠く淡路島や明石海峡大橋も見えます。また、丘からは日本夕陽百選にも選定されたすばらしい夕日を見ることができます。

大正区の渡船場の景観(たいしょうくのとせんじょうのけいかん)

- **甚兵衛渡船場：大正区泉尾 7 丁目と港区福崎 1 丁目を結ぶ（岸壁間 94m）**
- **落合上渡船場：大正区千島 1 丁目と西成区北津守 4 丁目を結ぶ（岸壁間 100m）**
- **落合下渡船場：大正区平尾 1 丁目と西成区津守 2 丁目を結ぶ（岸壁間 138m）**
- **千本松渡船場：大正区南恩加島 1 丁目と西成区南津守 5 丁目を結ぶ（岸壁間 230m）**
- **千歳渡船場：大正区鶴町 3 丁目と同区北恩加島 2 丁目を結ぶ（岸壁間 371m）**
- **船町渡船場：大正区鶴町 1 丁目と同区船町 1 丁目を結ぶ（岸壁間 75m）**
- **木津川渡船場：大正区船町 1 丁目と住之江区平林北 1 丁目を結ぶ（岸壁間 238m）**

大正区は四方を川と海に囲まれた地域であり、橋梁が整備された現在も、渡船は、区民の生活に欠かせない貴重な足としての役割を担っています。市内に 8 ヶ所ほどある渡船場のうち 7 ヶ所は大正区にあり、その景観には、水の都に思いを馳せさせるとともに、深く歴史を感じさせる力があります。

木津川水門(きづがわすいもん)

大正区三軒家東 3 丁目 6 番

造船所などがならぶ木津川にあるアーチ型水門であり、台風などで押し寄せてくる大阪湾からの高潮をせき止めることを目的に、昭和 45 年（1970 年）11 月に整備されました。アーチ型ゲートの主水門とスイング式ゲートの副水門からなっており、主水門の径間は 57m、副水門の径間は 15m、ともに緑色で彩られ象徴的な景観を呈しています。

大正内港のはしけ桟橋(たいしょうないこうのはしけさんばし)

大正区千島 3 丁目 24 番

大正中期から昭和初期、千島新田と泉尾新田(いずおしんでん)一帯に、運河・貯木場・水路の開削と道路・橋梁・宅地盛土などの開発工事が実施され、材木業者が誘致され、昭和 7、8 年（1932、1933 年）頃には業者数約 600 戸の木材街が出現し、その木材市場は業界の一大中心地となりました。昭和 50 年（1975 年）に現在の原型となる「大正内港はしけ桟橋」が整備され、わずかにその面影をとどめています。貯木場の移転後に整備され多くの船舶が係留されている桟橋の姿は、港らしい景観を作り出しています。

千本松大橋と千本松渡船場(せんぼんまつおおはしとせんぼんまつとせんじょう)

大正区南恩加島 1 丁目 11 番、西成区南津守 5 丁目 4 番

千本松渡船は大正区南恩加島(みなみおかじま)1 丁目と西成区南津守 5 丁目を結んでいます（岸壁間 230m）。千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしませんが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われます。昭和 48 年（1973 年）には、この岸壁間に千本松大橋が完成し、地元では「めがね橋」の愛称で呼ばれています。橋下を大型船舶が航行できるよう桁下高を 33m 確保し、両端部の 2 階式ラセン状ランプウェーを含めた橋長は 1,228m におよびます。

千歳橋と千歳渡船場(ちとせばしとちとせとせんじょう)

大正区北恩加島 2 丁目 5 番、鶴町 4 丁目 1 番

千歳渡船は大正区鶴町 4 丁目と同区北恩加島 2 丁目を結んでいます(岸壁間 371m)。鶴町側からは、多くの船が浮かぶ大正内港のかなたに、昭和山(標高 33m)や千島団地等が眺められ、尻無川の広々とした河口風景ともあいまって、ウォーターフロントの美しい景観となっています。平成 15 年 4 月には、この渡しの上に橋長 365m、海面からの高さ 28m の千歳橋が完成し大正区の新たなランドマークとなっています。

新木津川大橋と木津川渡船場(しんきづがわおおはしときづがわとせんじょう)

大正区船町１丁目１番、住之江区平林北１丁目１番

木津川渡船は大正区船町１丁目と住之江区平林北１丁目を結んでいます(岸壁間 238m)。昭和 30 年からカーフェリーを運航し乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていましたが、上流部に千本松大橋が開通し、今は人と自転車のみを運ぶ渡船となっています。新木津川大橋は、木津川の河口に位置している大正区と住之江区とを結ぶ橋で、河川内の航路(幅 150m、高さ 46m)確保のため、橋の全長は 2.4km に及んでいます。本橋は川を渡る主橋(長さ 495m 幅員 11.25m)と両岸のアプローチ橋で構成され、主橋の形式は経済性と施工性に加えて景観面も考慮して中路式バランスドアーチ型式を採用しており、現在、この形式の橋としては日本最大級であり、大阪港を代表する橋の一つとなっています。

野鳥園臨港緑地(やちょうえんりんこうりょくち)

住之江区南港北３丁目５番 30 号

野鳥園臨港緑地は、日本における渡り鳥の重要な生息地であった大阪湾岸一帯に生息する野鳥の保護を目的に設置されました。総面積は 19.3ha で、園内には、海が展望できる丘や林、干潮時に人工干潟になる西池のほか、八角形の屋根を持つ展望塔が整備されています。

南港オズ岸壁と大阪南港コスモフェリーターミナル(なんこうオズがんぺきとおおさかなんこうコスモフェリーターミナル)

住之江区南港北２丁目

大阪南港フェリーターミナル（さんふらわあターミナル）は、大阪と九州（別府、志布志）を結ぶ大型フェリーが就航しています。その東側のアジア太平洋トレードセンターの一部であるオズ岸壁からは、フェリーターミナルと昼間に停泊しているフェリーを眺めることができます。

第3章　大阪港の景観特性の整理事例

景観形成に際しては、建築物の計画時などに、前提となる敷地の特性や周辺景観を読み解き、景観計画の方針も踏まえながら、景観配慮の工夫を考えていく必要があります。

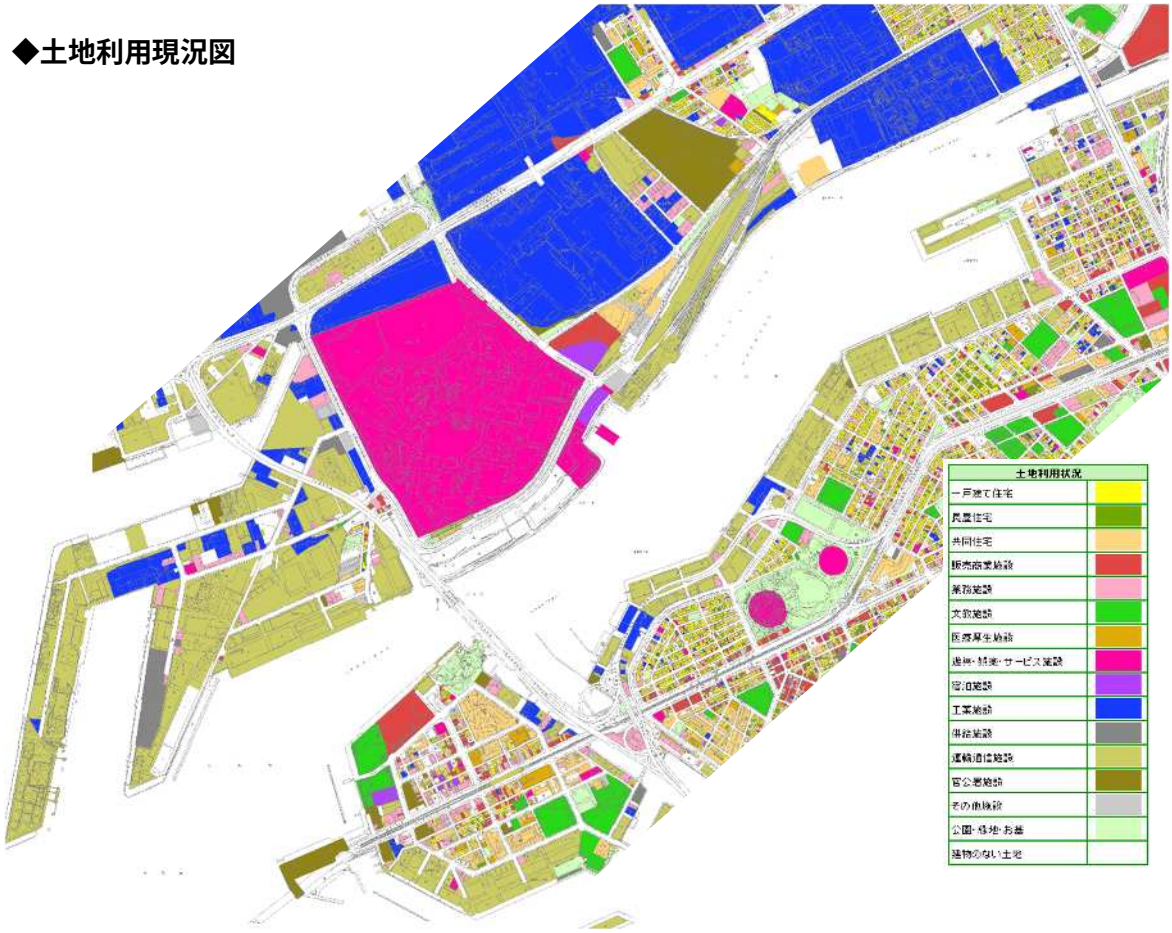
広範囲に及ぶ大阪港の土地利用や景観は、地域によって多様であり、周辺景観も異なります。本章では、敷地特性や周辺景観を読み解く事例として、河川沿いに集客施設や物流施設が集積し、市民の多くが目にする機会がある安治川地区について特徴等を整理しています。

本年度は、まず安治川地区についての状況を整理していますが、順次、他の主要なエリアについても追加していきたいと考えています。

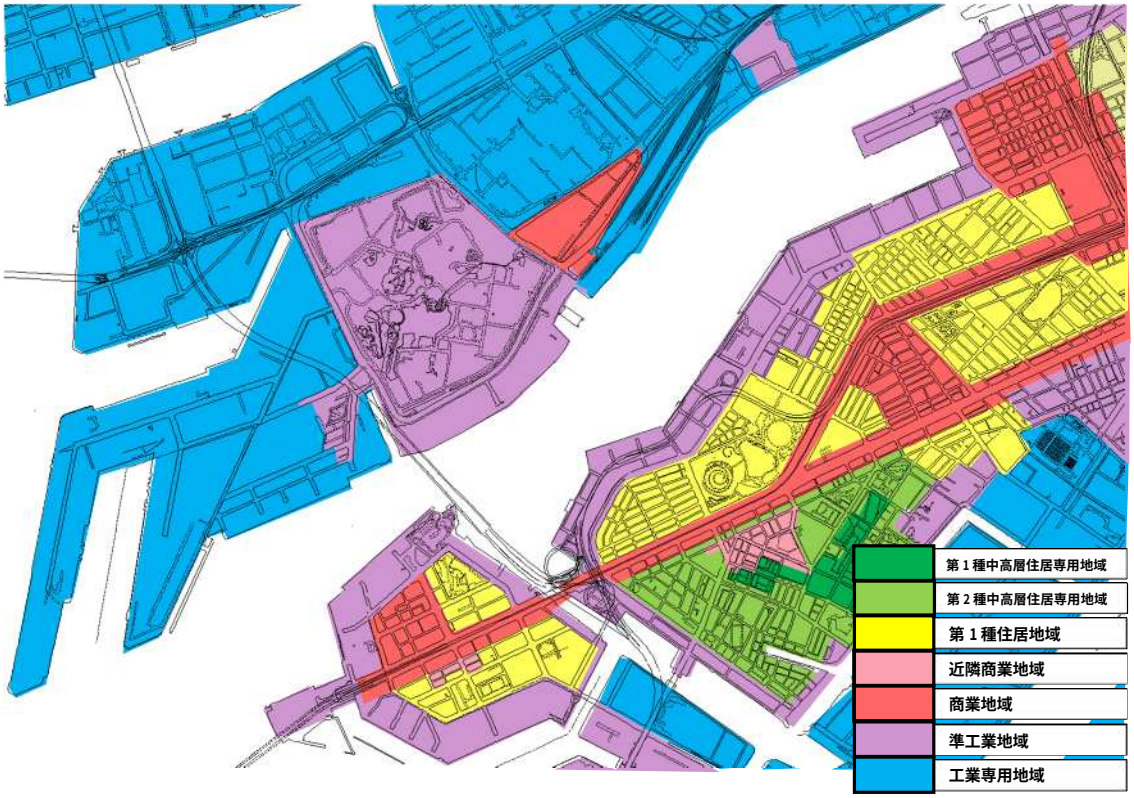
1　安治川地区

安治川周辺は、近世以降、諸国物産の集積地であった大阪の水運の中心として反映し、河川港のとしての大阪港の起源となる地区です。現在は、上流では市街化が進んでいますが、安治川水門より下流では、河川沿いに物流倉庫や工場等のまちなみや、天保山ハーバービレッジやＵＳＪ周辺の賑わいのある景観などが形成されています。

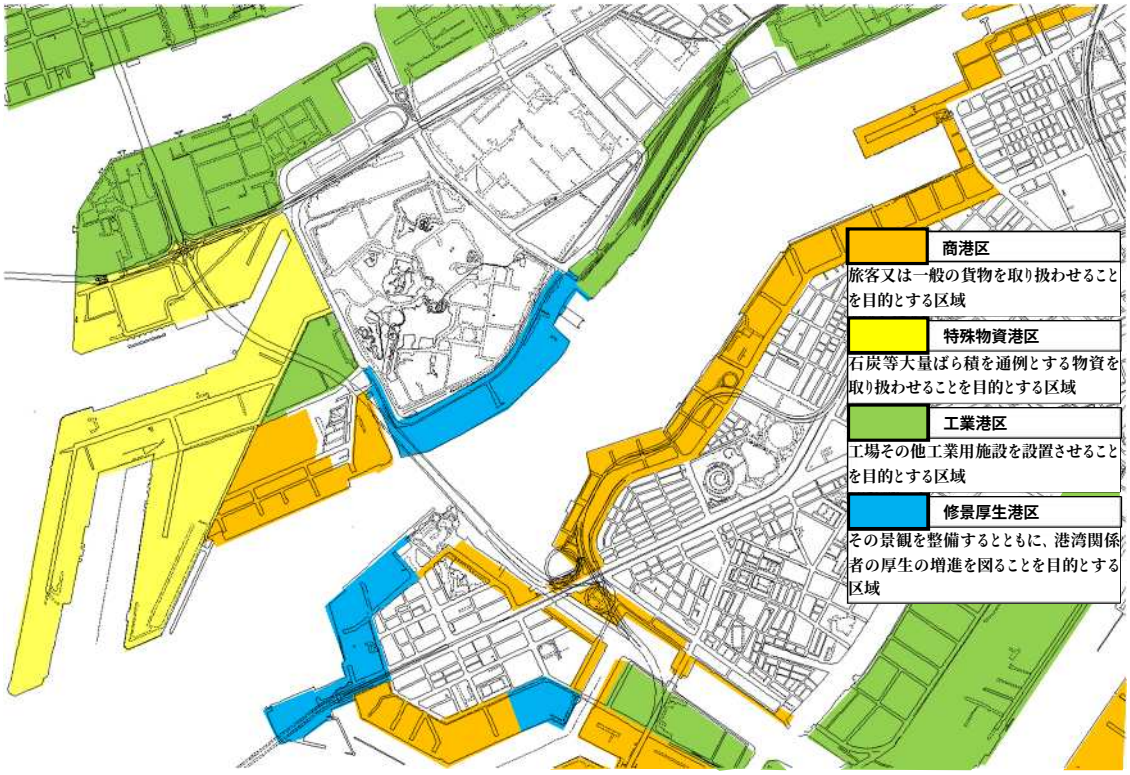
◆土地利用現況図



◆都市計画に基づく用途地域

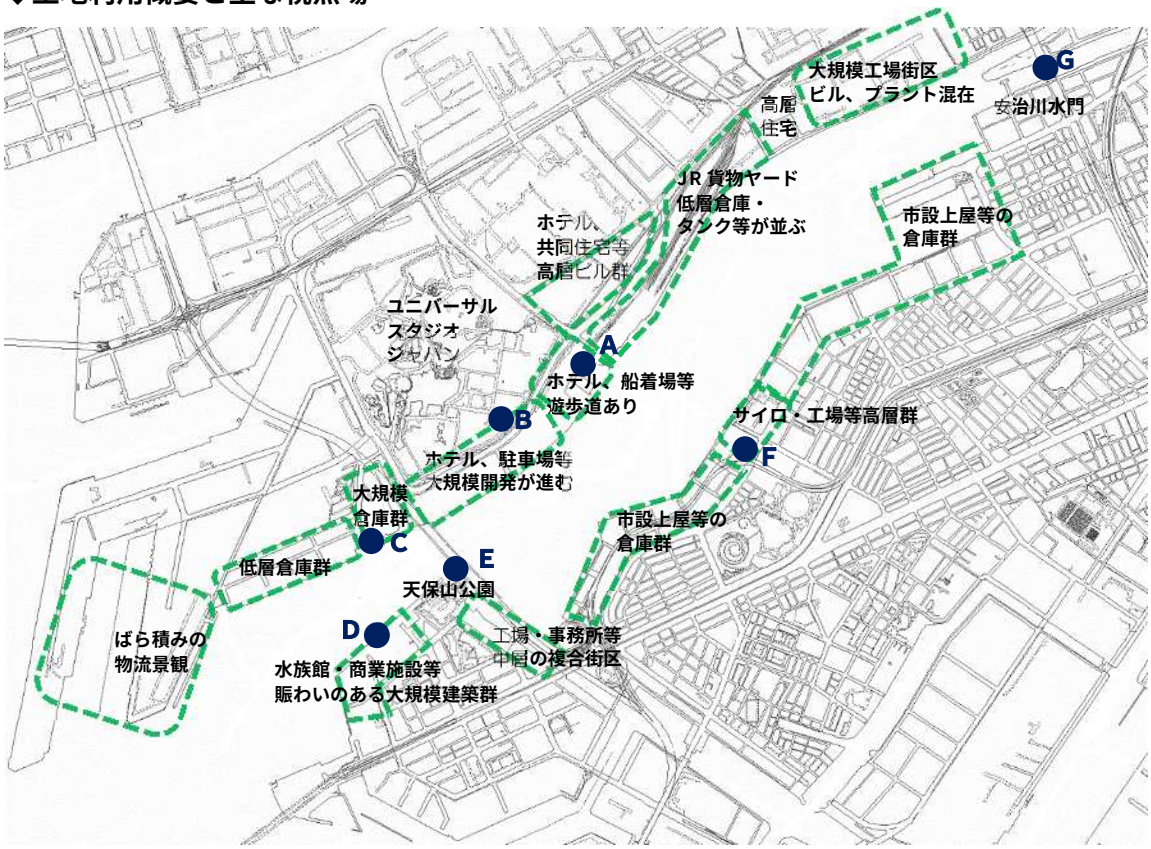


◆港湾法に基づく臨港地区の分区



※用途地域、分区については、概ねの区域を示したもので、正確性を欠きます。

◆土地利用概要と主な視点場



A：　ユニバーサルシティポート
B：　桜島北公園
C：　天保山渡船場（桜島側）
D：　天保山渡船場（築港側）
E：　天保山マーケットプレイス（天保山岸壁）
F：　阪神高速朝潮橋パーキングエリア
G：　国道 43 号線安治川橋（歩道）